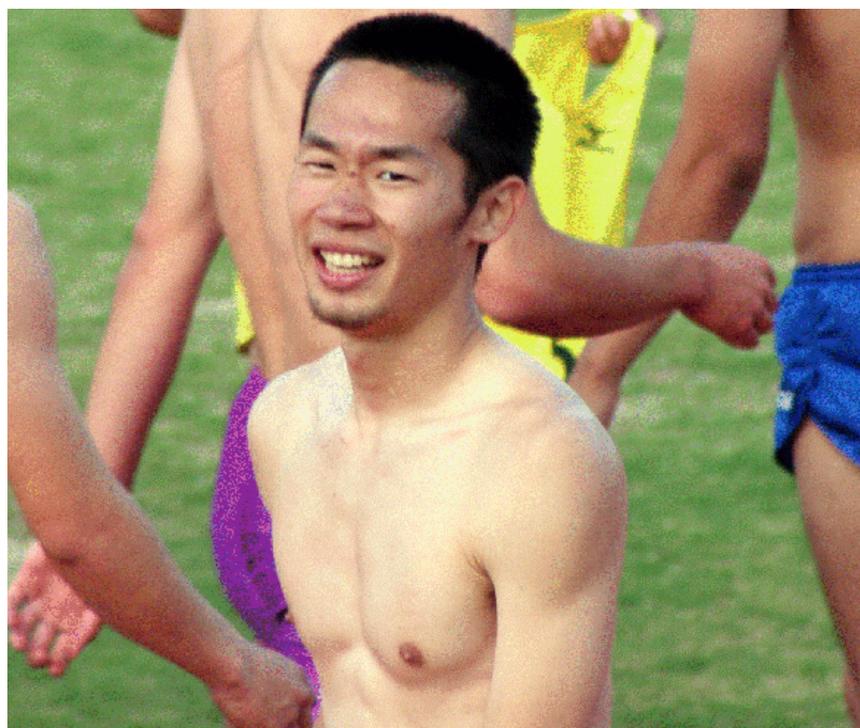


蒼穹NEWS

No.2

関西インカレ総括号

平成 19 年 5 月 27 日発行



最後の最後まで粘りを見せ、見事 8 位に入賞した萩澤。
達成感と安堵の気持ちから自然と笑みがこぼれる。

～ ～ ～ 目 次 ～ ～ ～

1. 主 将 挨 拶
2. 監 督 挨 拶
3. 関西インカレ対校得点
4. 関西インカレ詳細
5. 新入部員紹介

主将挨拶

先日行われました関西インカレにおいて、対校得点32点で総合9位という結果で1部残留を果たすことが出来ました。昨年より順位を1つ落としたものの、参加選手は概ね自己ベスト・シーズンベストを更新し、実りの多い試合にすることができたと思います。中でも、大学から陸上競技を始めた佐藤翔士(3)が800mで、学連員である吉良佳晃(4)が三段跳びで、共に8位入賞したのは特筆すべき活躍でしょう。

さて、7年に1度の京大主管による七大戦が2ヶ月後に迫っております。昨年の復讐を果たすため、今回の結果に甘んじることなく日々練習に励んでいこうと思います。

最後になりましたが、鴻ノ池まで足を運んでくださった蒼穹会の方々、ご都合が合わずも遠くから応援して下さった蒼穹会の皆様、ありがとうございました。これからもご支援・ご声援のほど宜しくお願いいたします。

京都大学陸上競技部主将

萩澤 佑樹

監督挨拶

先日行われた関西インカレでは、男子は総合9位で無事に1部残留を果たすことができました。得点と順位は昨年を下回る結果となってしまいましたが、多くの選手がベストを更新し次につながる結果を出せたことは大きな収穫だったと思います。しかし、ほとんどの得点が4回生以上によるものであり、各種目での下回生の今後の成長が必要だと感じさせられた試合でもありました。

女子は体調不良や怪我などでうまく調子を合わせることができず、芳しくない結果となってしまいました。今回の経験を今後に活かしてほしいと思います。

七月末には京大の主幹で七大戦が行われます。男女とも優勝に向けて部員一同練習に励んでいきますので、蒼穹会の皆様にはご支援・ご声援のほど宜しくお願いいたします。

京都大学陸上競技部監督

石田 真大

第 8 4 回関西学生陸上競技対校選手権大会

男子 1部総合成績

1 位	大阪体育大	154 点
2 位	立命館大	125 点
3 位	関西学院大	118 点
4 位	京都産業大	115 点
5 位	関西大	74.5 点
6 位	近畿大	61 点
7 位	同志社大	47 点
8 位	龍谷大	42 点
9 位	京都大	32 点
10 位	関西外語大	28.5 点
11 位	神戸大	26 点
12 位	京都教育大	23 点

男子 1部トラックの部

1 位	立命館大	92 点
2 位	京都産業大	79 点
3 位	大阪体育大	54 点
8 位	京都大	30 点

男子 1部フィールドの部

1 位	大阪体育大	85 点
2 位	関西学院大	60 点
3 位	京都産業大	37 点
	京都大	1 点

男子 1部混成の部

1 位	神戸大	13 点
2 位	関西大	13 点
3 位	関西学院大	4 点
6 位	京都大	1 点

男子 2部総合成績(上位のみ)

1 位	天理大	167.5 点
2 位	大阪教育大	92 点
3 位	摂南大	89.5 点
4 位	大阪経済大	77 点
5 位	大阪大	67.5 点
6 位	太成学院大	49 点
7 位	びわスポ大	41 点
8 位	佛教大	34 点

女子総合成績

1 位	大阪体育大	127.5 点
2 位	龍谷大	104 点
3 位	関西大	86.5 点

関西インカレ詳細

第1日目 4月29日(日) 淀川河川敷

ハーフマラソン決勝

1位	渡辺 圭一 (京都産業大4)	1:06:39
2位	木澤 創平 (立命館大4)	1:06:42
3位	長澤 朋哉 (京都産業大4)	1:06:58
12位	相澤 泰隆 (京都大D3)	1:10:13
16位	慶田 雄介 (京都大3)	1:11:32
22位	宇部 達 (京都大M2)	1:16:08

今年は淀川河川敷で、高い気温の中レースが行われた。序盤は実力のある選手が実力どおりの走りを見せ、ハイペースでレースは進んだ。相澤、宇部両選手は苦しみながらも先頭集団に追いつく。慶田はやや後方で自分のペースを守る。中盤に差し掛かり、宇部は体調不良から順位を落としていく。慶田はその宇部を捉え順調にピッチを刻んでいく。10キロの通過は京都インカレ10000mよりも早いものだった。相澤は練習環境の変化を感じさせない走りで、そのポジションを守る。後半にさしかかって激しい消耗戦の中、相澤、慶田は自分の走りを崩さない。ゴールすると相澤は入賞に惜しくも届かず12位、慶田は自己ベストであったことを考えると、二人とも大健闘したと言えよう。宇部はいつもの安定感が見られなかった。トラックの部ではきっと修正してくれるだろう。

対校得点(1日目終了時点)

1位	京都産業大	14点
2位	立命館大	13点
3位	近畿大	5点
4位	関西学院大	3点
5位	大阪体育大	1点

第2日目 5月14日(月) 鴻池陸上競技場

女子4×100mR予選(2組3着+2)

富田夏希・早瀬紗也佳・林奈央・広瀬亜由美
1組7着 54.02

七大戦を視野に入れ初めてのオーダーで挑ん

だ女子4継。1走富田は序盤から他校と離されてしまい苦しい展開となる。2走早瀬へのバトンはややつまりながらも無事渡り早瀬はスピードに乗る。3走林は快調な走りを見せ広瀬へのバトンパスもきれいにきまった。波にのる広瀬も必死に追走するも、関西強豪校から大きく離されてのフィニッシュとなった。しかし個々の走力は確実に去年よりも上がっているため、バトンワークにさらなる磨きをかけ七大戦に臨んでほしい。(吉川直樹)

4×100mR予選(2組3着+2)

大野敦史・杉本昌大・引地原野・石田真大
1組 DSQ

反応よくいいスタートを切った大野から杉本へのバトンはややつまりながらも渡った。杉本は好走を見せ他校と並走するが引地へのバトンは1度届かず引地は減速し、このロスにより大きく差が開いてしまった。引地はそのパワフルな走りで必死に他校に追いつくが、石田へバトンが渡るころには前と30mほど開いてしまい勝負ができなかった。結局2走から3走へのバトンパスがオーバーゾーンとなり失格となった。(有山)

400mH予選(3組2着+2)

水谷 太郎(M1)	3組4着通過	52.53
井上 智士(4)	1組6着	55.45 PB
白方 朗史(5)	2組	DNS

ハイレベルな争いが予想された400mH。白方が欠場となり京大からは水谷・井上二人の出場となった。今期好調な井上は格上の相手に臆することなく前半から積極的にとばす。第3コーナーあたりから徐々に遅れはじめるも、ラストは必死にくらいつき自己ベストでのゴールを飾った。怪我のため十分な練習がつめていない水谷は前半を落ち着いて入る。8台目のハードルで足が合わず減速してしまい、持ち味のラストスパートが利かなかった。組で4着のゴールとなり一瞬スタンドはヒヤリとなったが、プラスの2番手で決勝進出を決めエースの意地を見せた。(小山裕之)

800m予選(4組3着+4)

岡本 英也(M1)	2組2着通過	1.53.39
前川 真彦(5)	3組4着通過	1.54.21 PB

佐藤 翔士(3) 4組3着通過 1.54.75 PB

期待の男子 800m。最初に登場したのは中距離不動のエース、岡本。1周目はいつも通り集団後方につけ 400m を 55 秒で通過する。ラスト 300m 地点から岡本は順位を徐々に上げ 2 位をキープし、そのままゴールした。就活に苦しみながらではあるが、調子は上向きの前川。スタート後は集団後方につけ 1 周目は 56 秒で通過。バックストレートでラストスパートをかけ順位を上げていく。ラストはフォームを乱しながらも何とか粘り、見事 1 秒以上のベスト更新を果たした。二人の追い風に乗りたい佐藤は、1 週間前にインフルエンザから復帰したばかりで不安を抱えてのスタート。レースは昨年度 2 位の選手が欠場のため組 3 着を狙う展開となり、佐藤は何度となく交錯した。しかし果敢にスパートをかけ何とか 3 位を死守。ゴール後倒れこんでしまうほど気力を出しつくしたレース。結果はベストを 2 秒更新する快進撃となった。3 選手の活躍により京大スタンドは大いに盛り上がりを見せた。(小林弘尚)

女子 100m 予選(5組2着+6)

富田 夏希(2) 5組8着 13.71(-1.2)

女子 100m には京都 IC でも大学ベストをたたき出した、今期好調の富田が出場。スタートの合図に鋭敏な反応を見せるも、課題の加速局面で他選手に離されてしまう。中間疾走ではリラックスした走りでも再加速し食いが下がったが、少しずつ差を開けられていった。しかし、去年とは明らかにフォームも改善されており、スピードの乗せ方がわかった時点で女子のエース的存在となることは間違いない。今後の対校戦や記録が楽しみとなるレースであった。(早瀬)

100m 予選(4組3着+4)

石田 真大(M1) 2組7着 10.85(+1.8)

七野 雅史(4) 4組7着 11.05(+1.7) PB

研究が忙しく今期は不調が続いていた石田監督。この関カレでこそ 10 秒代の走りを見せてほしいと部全体の期待は高まるばかり。石田はスタートでやや出遅れるも、本来の走りを取り戻しぐんぐん加速に乗る。前を行く選手との差をじわじわとつめ、見事 10.85 をマークし全員の期待に応えた。七野は京都 IC で大学ベストを更新し波

に乗っている選手。スタートで遅れをとりスタンドを動揺させるも、中盤からどんどん加速していき隣の選手と競り合いながらゴール。結果高校以来の自己ベスト更新に成功。しかし七野のポテンシャルはこの程度のものではない。更なる飛躍が大いに期待される。(広瀬)

5000m 決勝

1 位 松岡 悟史 (龍谷大 4) 14.26.55

2 位 大西 毅彦 (京都産業大 4) 14.33.95

3 位 渡辺 圭一 (京都産業大 4) 14.34.42

14 位 相澤 泰隆 (京都大 D3) 15.19.21

日差しが強い厳しい天候の下、5000m 決勝は始まった。レースは序盤からハイペースで進み、集団はすぐに縦長になり相澤はその集団の最後尾に付く形となった。しかし 1500m 過ぎから集団から離され、そこからは集団からはなれた 3 人で競り合うようにレースを運んだ。終盤は先頭からこそ差をつけられたが、大きくペースを崩すことなく集団から落ちてきた選手を着実に抜かし 14 位でのゴールとなった。入賞こそできなかったものの、厳しい天候と序盤からのハイペースな展開の中で昨年のシーズンベストを上回るタイムを出せたことには大きな意味があるだろう。(西原)

4 × 400mR 予選(2組3着+2)

押野泰平・水谷太郎・佐藤翔士・井上智士

1組6着 3.20.28

けがや試合日程の関係からメンバーがなかなか決まらなかったマイル。今年は上記のオーダーで決勝を目指すこととなった。1 走押野は普段とは違い前半から積極的な走りを見せる。2 走の水谷も実力通りの走りをするも、関西 1 部のレースとなると並走するので精一杯。3 走佐藤はバトンをとした関西大にバックストレートで激しい追い上げにあうも、自分のペースを守りラストの直線で再び抜き返し、バトンは最終走者井上へ。井上は迫りくる足音から必死に逃げ好走を見せるも、他の強豪校には 1 歩及ばず。決勝進出とはならなかった。(高瀬)

三段跳決勝

1 位 小川 恭輔(関西大 3) 15m76 + 0.9

2 位 細川 謙太(関西学院大 3) 15m23 + 1.4

- 3位 北口 翔也(立命館大1) 15m22+0.4
 8位 吉良 佳晃(京都大4) 14m51+1.4
吉良[14m35-14m51-14m03-x-x-14m38]

学連員として、そして選手として最後の関カレとなった吉良。京都 IC 後に体調を崩し体重が 2kg 増量しようとなんのその。強風吹き荒れ他選手がファールを続出する中、吉良は1本目からシーズンベストを更新し幸先のよいスタートを切った。2本目はステップで若干詰まりながらもベスト 8 進出を決める見事なジャンプを見せた。その後は疲れからか記録の更新こそはならなかったが、6本目には観客の拍手を背に思い切ったジャンプを見せた。上位は抜きつ抜かれつの白熱した展開を見せる中、最終跳躍者が 15m76 の大記録で逆転優勝を決めた。そんなハイレベルな試合の中で、貴重な 1 点をもぎ取った吉良は本当に健闘したと言える。(谷口)



見事なジャンプで京大に勢いをもたらした吉良

ハンマー投決勝

- 1位 廣瀬 裕人(立命館大3) 59m14
 2位 大宅 和幸(京都教育大2) 57m52
 3位 森本 有一(京都産業大4) 56m74
12位 田中 聡一(京都大 M1) 46m55
田中[46m53-45m62-46m55]

投擲陣の先陣を切って田中が出場した。公式練習から振り切りで崩れながらも 45m を超える投擲を見せ、調子のよさをうかがわせた。1 投目はうまく軌道に力を伝えられず高さはでなかったものの、早速セカンドベストの投擲を見せた。続く 2 投目は記録への期待からか投げに力みが見られ、スピードも上がりきらず、振り切りもいま一つ決まらない。3 投目も修正がうまくいかないまま競技終了となってしまった。田中は 3 本まとめてき

ちんと記録することはできたが、他校の壁の高さを痛感させられる試合となった。しかし、本人は手がかりを掴んだようで次は大ベストが出ると語ってくれた。変身した田中の姿を見るのも遠くはないだろう。(佐藤慎祐)

対校得点 (2日目終了時点)

- 1位 京都産業大学 37点
 2位 立命館大学 37点
 3位 大阪体育大学 19点
9位 京都大学 1点

第3日目 5月18日(金) 鴻池陸上競技場

1500m 予選 (2組 4着+4)

- 岡本 英也(M1) 2組 5着 通過 4.01.10
 小山 裕之(2) 1組 10着 4.17.20

壁は厚かった。1組目に出場した関西インカレ初挑戦の小山。まずは最後尾につけ様子をうかがう。しかしコーナーを出てから集団が団子状態になるほど超スローペースとなってしまった。互いがけん制しあい、大きな変化のないまま 1000m を通過。そこからスパート合戦へと突入した。小山は必死の形相で追いつくもやはり相手は格上。関カレ 1 部の怖さを思い知らされた悔しいレースとなった。岡本はいつものとおり後ろにつける。200m を通過したあたりから 1 人が飛び出し、岡本は集団を引っ張る形でレースを展開する。ラスト 1 周でペースが上がり途中やや後退するも、落ち着いてゴール。組で 5 着となりプラスで決勝進出を決めた。(小野山)

女子 1500m 予選 (3組 3着+3)

- 川口 紗弥香(4) 1組 14位 5.35.24

女子 1500m には 4 回生、川口が出場した。あまり調子がよくない中、周囲の選手は強豪揃い。スタートからハイペースなレースとなったため、序盤から先頭集団においていかれる。2 周目以降は和歌山大学の選手と二人でレースを運ぶことになる。苦しい展開になるも、川口はペースを大きく崩すことはなく最後まで意地を見せた。京都 IC よりタイムこそは落ちてしまったがうまくまとめた試合であった。ここから調子を上げて七大戦

ではベストな走りを見せてくれることを期待したい。(古林)

400m 予選(4組3着+4)

葎中 聡(4) 3組7着 51.39

参加標準が 48 85 とあって 1 組目からハイレベルなレースが行われる。葎中はベスト更新にむけ前半から積極的にとばす。バックストレートに入ったところで内側の選手にとらえられるも 200m 地点までは並走を続ける。コーナーから徐々に他選手との差が開き始めるも、前半の走りからくる急激なスピード低下は抑える。ホームストレートに入るとさすがに疲れを見せるも最後まで粘りの走りでゴールした。ベストには 1 歩及ばなかったもののセカンドベストをマーク。前半から果敢に攻めた気持ちのよいレースであった。(岡本京祐)

3000mSC(タイムレース 2 組)

1 位 渡辺 圭一(京都産業大 4) 9.00.84
2 位 佐藤 章徳(京都大 D2) 9.03.20
3 位 河原井 司(立命館大 3) 9.04.25
12 位 近藤 学宏(京都大 3) 9.27.06
20 位 下條 亘(京都大 3) 10.21.84

タイムレース決勝で行われた 3000mSC。下条は序盤からハイペースなレースについていけなかったが、終盤に粘りをみせ京産の選手を抜きゴールした。そして二組目がスタート。スタート直後近藤がやや出遅れ集団の後方に付く展開となったが、比較的安定したペースでレースは進んだ。佐藤は集団の中ほどに位置取りをし、レースの動きを探る。1500m を過ぎた頃、動きのない集団にしびれを切らした佐藤が先頭に踊り出た。その後、700m ほど佐藤を先頭にレースは進んだが、ラスト 2 周に差し掛かったところで立命の選手がスパートをかけ集団が 2 つに割れる。佐藤は辛うじてスパートに喰らいついたが、この時点で 4 番手。そのままラスト 1 周にさしかかった。残り 300m で佐藤は先頭と並び一気に抜きにかかるも、京産の選手は先頭を譲らない。ラストは振り切られ優勝こそは逃したものの、見事準優勝を果たす。近藤もベスト近いタイムでゴールし復活した姿を見せてくれた。(櫻井)

円盤投決勝

1 位 藤岡 篤史 (京都産業大 3) 48.03
2 位 中窪 克彰 (京都産業大 2) 45.35
3 位 富士原 亮 (京都産業大 4) 43.64
16 位 佐藤 慎祐 (京都大 2) 31.37
佐藤 [x - 30.09-31.37]

夕方から雨という予報が正しかったのか、暗雲立ち込める微妙な天気の中行われた。京都インカレでも 30m を越える投擲を見せ徐々に調子の上がってきている佐藤。七大に向けても弾みとなる投げが出来るか。練習から 30m を超え、なかなかの調子の良さを見せた。1 投目は距離は出たものの、右に抜けファール。2 投目は方向を修正したが、今度は上に抜けてしまった。3 投目も枠内に収めはしたがやはり右に抜けてしまい、この日の最高となった。ベストこそでなかったものの、夏の七大战に向けて確実に調子を上げてきている。(嶋田)

十種競技(前半)

萩澤 佑樹(4) 3027 点
[100m11.99 (+0.0)(653)-LJ6.45 (+0.9)(686)
SP10.59 (521)-HJ1.70 (544)-400m54.41 (623)]
三浦 裕介(3) 2958 点
[100m12.00 (+0.0)(651)-LJ6.35 (+2.2)(664)
SP9.55 (459)-HJ1.75 (585)-400m54.99 (599)]

関西の鉄人を決める十種競技。今年は萩澤に加え三浦も参戦。萩澤は 100m、走幅跳を無難にこなす。得意の砲丸投では全体で 2 位の記録を残すも本人の納得がいく投擲はできなかった。しかし走高跳ではベストタイをマークしガッツポーズが飛び出した。400m でも力走を見せ 1 日目を終了した。これが 2 度目の十種競技となる三浦は走幅跳で追参ながらベストをマーク。続く砲丸投でも大きくベストを更新し流れを掴んだかに思われたが、走高跳では思うように記録を伸ばせず。それでも 400m では最後まで粘りここでもベストを更新した。(吉川直樹)

対校得点(3日目終了時点)

1 位 京都産業大学 68 点
2 位 立命館大学 58 点
3 位 関西学院大学 44 点
10 位 京都大学 8 点

第4日目 5月19日(土) 鴻池陸上競技場

10000mV 決勝

1位	上田 勝也	(京都教育大 2)	44.25.13
2位	廣江 悠	(京都大 3)	44.49.93
3位	古峨 能喜	(神戸大 4)	45.17.78

男子 10000mV には、この種目 2 連覇を果たしているエース廣江が出場した。2 月に左足首を骨折し、復帰後わずか 1 ヶ月での試合となったが、序盤から先頭を引っ張り積極的なレースを見せる。4000m 過ぎから京都教育大の日本選手権入賞コンビとの 3 人の集団となり、しばらく先頭を守ったが、6000m あたりで京都教育大の二人がスパート。一旦離されかけるが、バックストレートでペースを上げ再び先頭を奪い返す。しかし、スタミナが切れ始め、ついに先頭を譲ってしまった。徐々に先頭と溝を空けられ終盤は苦しい展開に。このまま 3 位に終わってしまうかと思われたが、懸命の粘りが運を呼び寄せ、京都教育大の選手が失格となり廣江は 2 着でレースを終えた。3 連覇こそならなかったが、廣江の得点への執念が十分に伝わるレースであった。(小林啓人)



攻めの歩きで 2 位をもぎとった廣江

1500m 決勝

1位	吉井 賢志	(大阪体育大 4)	3.52.25
2位	大西 毅彦	(京都産業大 4)	3.53.93
3位	小野 良太	(立命館大 2)	3.54.07
5位	岡本 英也	(京都大 M1)	3.56.67

前日の予選をプラスで拾われ、決勝に挑む岡本。

エントリートタイムから、入賞はギリギリのライン。1 部残留のためにも岡本の勝負強さに期待がかかった。レースは序盤からハイペースで展開、最初の 400m は 60 秒ちょうどあたり。岡本は集団後方につける。そこからいったんペースは落ち着き集団はかたまってきたまま進む。と、1000m 手前で選手同士が接触。岡本も転倒しそうになるが何とか持ちこたえる。ラスト 400m、先頭の数人が急激にペースアップし、集団は縦長に。ここで岡本もしっかりと対応し、スパートをかける。さすがに先頭には追いつけなかったものの、勝負強さを見せて 5 位入賞。岡本の力強いガッツポーズに、京大応援席は大きくわきあがった。(平子)

女子 200m 予選 (5 組 2 着+6)

早瀬 紗也佳	(3)	2 組 6 着	27.39(+0.7)
--------	-----	---------	-------------

突然の雨で気温が低下し、風も安定しない状況の中行われたこの種目には、早瀬が出場した。内側の 2 レーンを走ることとなった早瀬は外のレーンを走る強豪を相手に前半から積極的なレースを仕掛けた。しかし、外側のレーンとの差でつめることに苦しむ早瀬は、レースの流れに乗り切れないまま 6 着でフィニッシュ。今後課題を残すレース結果となった。(久保)

200m 予選 (4 組 3 着+4)

石田 真大	(M1)	2 組 5 着	22.19 +0.4
七野 雅史	(4)	4 組 6 着	22.54 +1.0

雨も上がり、ゆるやかな追い風の中行われた 200m 予選。100m で 10 秒台を出して上り調子の石田はスタートから快調にとばす。曲走路の出口では横一直線という展開であったが、上位の伸びにはついていくことはできず 5 着。京都 IC でこの種目自己新を出した七野。仕切り直しとなったスタートは少し出遅れたかに見えた。しかし、曲走路ではよく伸び、最後まで粘り今大会 100m と合わせ 2 つ目の自己新を記録した。(三甲野)

400mH 決勝

1位	大塚 光雄	(大阪体育大 M2)	51.53
2位	栄 悠樹	(関西学院大 3)	52.44
3位	水谷 太郎	(京都大 M1)	52.59

予選では本来の持ち味を十分に発揮できずにギリギリの決勝進出となった水谷。スタート直後

から積極的にスピードを出し、先頭付近を維持する。3 台目で若干間が詰まってしまったがそのあとはしっかり立て直し、第3 コーナーを快調に抜けていく。9 台目付近から最後の追い上げを見せストレートで3 位をとらえフィニッシュ。怪我などでの不調を感じさせない期待通りの走りで、昨年度優勝者の意地と健在ぶりをアピールした。(押野)

女子走幅跳決勝

1 位	中村 悠子	(関西大 3)	5.93	+1.3
2 位	久保 弘恵	(天理大 3)	5.61	+2.2
3 位	森山美知子	(大阪市立大 2)	5.61	+0.0
17 位	早瀬 紗也佳	(京都大 3)	5.10	-0.9
29 位	富田 夏希	(京都大 2)	4.68	-0.7
	早瀬	[5.10-4.92-5.08]		
	富田	[x -4.24-4.68]		

富田と早瀬が出場。富田は1 回目は足が合わずファール。2 回目は助走距離を長くしたが今度は板を踏まずに跳んでしまった。後がなくなった3 回目は助走がうまく合い、記録としては大学ベストとなるジャンプを見せた。一方の早瀬は1 回目は助走が合ったものの記録はいまひとつ。2 回目は助走が合わず、迎えた3 回目では助走は合ったが記録は伸びなかった。怪我であまり練習できなかったこともあり、最後まで自分の力を出すことが出来なかった。(三浦)

砲丸投決勝

1 位	高久保 雄介	(大阪体育大 3)	16.79
2 位	山田 傳二	(大阪体育大 2)	15.52
3 位	鈴木 考尚	(大阪体育大 3)	15.19
12 位	嶋田 研志郎	(京都大 2)	11.35

昼からにわか降った雨でぬれてしまったサークルで行われた砲丸投には嶋田が出場した。1 投目はグライドで姿勢が崩れ、それでも押し切れたかのように見えたがスピードが上がりなかつた。2 投目は姿勢も崩れず、左足も速く接地でき勢いよく押し切れ、自己の持つ記録を更新してきた。3 投目はさらに記録を更新しようとしたが、砲丸の軌道に腕が合わず玉が浮いてしまい惜しい投げとなってしまった。関カレという大舞台であまり練習のつめない状態でのベスト更新は嶋田にとっても投擲勢にとっても七大以降の大会への大きな弾みになった。(佐藤慎祐)

十種競技(後半)

萩澤 佑樹(4) 2588 点

[110mH15.34(+2.3)(809)-DT27.15 (409)-PV3.20 (406)-JT44.82 (512)-1500m5.19.70 (452)]

三浦 裕介(3) DNF

前日の走幅跳で足を痛めてしまった三浦は無念の途中棄権となった。2 日目は萩澤の得点源である110mH で競技開始。貫禄の走りで他を圧倒する。続く円盤投、棒高跳ではそれぞれきっちりと記録を残す。槍投では部員全員の声援を背に受け渾身の投げを見せる。槍投が終了した時点で総合7 位。萩澤の入賞は最後の1500m の結果次第となった。1500m はスタートからハイペースでレースが進む。萩澤は最後尾で自分のレースを展開しようとするが、周りが速いためどんどん離される。しかし萩澤は部員の声援を力にし、苦しみに耐える。そして何とか最後まで持ちこたえベスト記録でゴール。悲願の得点獲得を成し遂げ、大役を果たした。(吉川直樹)

対校得点(4日目終了時点)

1 位	大阪体育大学	105 点
2 位	京都産業大学	85 点
3 位	関西学院大学	81 点
8 位	京都大学	26 点

第5日目 5月20日(日) 鴻池陸上競技場

女子100mH予選(3組2着+2)

広瀬 亜由美(2) 2組7着 18.65 ?0.3

関カレ最終日の最初の種目は100mH。天候は曇り。過ごしやすい気候の下行われた。最近幸せな生活を送る広瀬はこの日のために十分に練習をつんできた。しかし100mH に出場するのはこれが3 回目。更にはこの大舞台ということもあって緊張してしまい、走り自体は悪くないもののハードルを何台かひっかけてしまった。残念ながら今回はベスト更新こそはならなかったが、この悔しさをバネにこれからがんばってほしい。(田淵)

110mH 予選(3組2着+2)

水谷 太郎(M1)	1組2着通過	14.90	+0.8
萩沢 佑樹(4)	3組4着	15.40	+1.9
前川 真彦(5)	2組6着	16.68	+1.4

1番最後に位置に付いた水谷はスタートから集中していた。1台目ですでに体半分前に出ており、テンポよく刻んで最後は競り勝ち2着で決勝進出を決めた。後に800m準決勝が控えていた前川はスタート前にハードルをくぐるパフォーマンスでスタンドを笑わせた。3・4台目で派手に当たり苦しい展開となったが、開き直って低めのハードルを見せ、勢いよくゴールした。10種競技の疲れから少し動きが重いように見られた萩沢ではあるが、スタンドの声援に力強く握った右手を突き上げて応えた。スタートでは少し出遅れたものの、力強く刻んで徐々に追いついていった。しかし、最後のハードルにつかまり決勝進出を逃した。(三甲野)

800m準決勝(2組3着+2)

岡本 英也(M1)	1組2着通過	1.53.70
佐藤 翔士(3)	1組5着通過	1.55.46
前川 真彦(5)	2組8着	1.58.94

予選で前川、佐藤が立て続けに自己ベストを出し、出場者全員がこまを進めた800m準決勝。スタート直前まで曇っていた空から日が差し始め、良い予兆が感じられる。1組目はエース岡本と絶対調佐藤。レースは慎重な岡本と積極的な佐藤で対称的な展開。400mは56秒で通過。直後集団は2つに分かれ岡本は前へ佐藤は後方につく。第4コーナーで岡本は先頭から少しはなされ4位に落ちるもラスト50mで抜き返し、3位でゴール。2組目は、予選の再現なるか前川。スタート直後から先頭に立ち、集団を引っ張る。後半粘りたいところではあったが前川はバックストレートから徐々に順位を落とし8位でゴール。そしてこの組結果、佐藤は決勝に残り、2人が決勝進出という快挙を成し遂げ、1部残留をほぼ確実なものとした。(小林弘尚)



初出場でいきなりの決勝進出を決めた佐藤

110mH 決勝(風:+2.3)

1位	玉井 秀樹 (立命館大2)	14.27
2位	緒方 健二 (関西外語大4)	14.34
3位	松本 博貴 (京都産業大4)	14.48
7位	水谷 太郎 (京都大M1)	14.98

「水谷はヨンパーだけじゃないのか」と他校は思ったに違いない。水谷がトッパーでも魅せた。号砲とともに選手は一斉にスタート。水谷も反応よくスタートを切る。1台目でややバランスを崩し他の選手に離されるも、次第に調子を取り戻す。後半はハードリングもきれいにきまってスピードに乗り、隣のレーンの選手をとらえて7位でフィニッシュ。怪我が不安視されていたが、終わってみれば400mHと合わせて8点を獲得。水谷自身もほっと胸をなでおろしたことであろう。(吉川直樹)



110mHでも決勝進出を果たした水谷

800m 決勝

1 位	吉井 賢志	(大阪体育大 4)	1.52.75
2 位	木田 智士	(立命館大 4)	1.52.98
3 位	小川 侑也	(大阪体育大 4)	1.53.44
6 位	岡本 英也	(京都大 M1)	1.55.86
8 位	佐藤 翔士	(京都大 3)	2.02.13

昨年この種目 3 位の岡本英也と今シーズン成長著しい佐藤翔士。レースはスタートとともに 1 人が飛び出しそれを残りの 7 人で追いかけるという展開で始まった。ハイペースではあったが京大の 2 人は無理をせずに集団の後方で落ち着いてレースを進めた。岡本は 400m を 56 秒で通過し、そこから徐々にペースをあげ、500m 地点で 1 人かわす。そこから必死に追走するも前の走者を捉えることはできず 6 着でゴールした。佐藤は惜しくも 8 位という結果に終わってしまったが、陸上を始めて 3 年、初めての関カレでいきなりの決勝進出を果たすなど、いま底の見えない選手である。今後の活躍が大いに楽しみである。(上田)



800m・1500m とレースをこなし、両種目で得点する活躍を見せた岡本

10000m 決勝

1 位	松岡 悟史	(龍谷大 4)	29.55.01
2 位	藤原 庸平	(立命館大 2)	30.21.78
3 位	大西 毅彦	(京都産業大 4)	30.28.02
15 位	宇部 達	(京都大 M2)	32.43.05

京カレから調子を戻してきた宇部。スタート後は冷静に集団後方につける。その後ペースを上げ前を行く 3 人をとらえるも先頭集団には離され、2000m を通過する頃には 3 人程度の集団を形成していた。次第に集団のペースも上がり宇部は離されそうになるもくらいつき、ここからしばらく近

畿大の選手と二人でレースを進める。5000m を 15 45 で通過し、6000m 過ぎでは近畿大の選手を突き放し一人で前を追った。しかし徐々にペースが落ちてきて苦しい展開となる。それでも宇部は暑さにも負けず、最後まで粘りの走りを見せハーフマラソンでの借りを返した。(慶田)

やり投決勝

1 位	今宮 翼	(関西学院大 4)	68.24
2 位	小藤 聡	(大阪体育大 4)	64.88
3 位	高田 正太郎	(大阪体育大 3)	64.41
13 位	山本 貴之	(京都大 4)	52.60

山本[52.56-x-52.60]

少し肌寒い向かい風の吹く中行われたやり投には山本が出場した。1 投目はあまりキレが感じられず、まっすぐには飛ばなかったがいつもの大きな投げを見せた。2 投目は投げ急いでしまい腕だけの投げになってしまった。3 投目は大きく体を使って投げられたものの、キレのある投げと呼べるものではなかった。山本自身調子は悪くなかったが、ここ数日あまり練習がつめられず、さらに当日の寒さもあって多少動きにくかったようで、期待された自己記録更新も次回以降の大会に持ち越しとなった。(佐藤慎祐)

走幅跳決勝

1 位	日浦 基揮	(大阪体育大 2)	7.55 +4.0
2 位	和田 豊成	(近畿大 4)	7.50 +1.9
3 位	中村 紘平	(関西学院大 2)	7.43 +2.4
12 位	杉本 昌大	(京都大 M2)	6.95 +3.3
17 位	谷口 康晴	(京都大 2)	6.64 +1.1

杉本[x-6.95-6.83]
谷口[6.64-4.34-6.47]

関西インカレ初出場の谷口。朝は緊張している様子だったが、試合が始まると 1 本目にいきなり自己ベストを大きく更新するジャンプを見せた。更なる記録更新が期待されたが、2 回目は着地までいけず、3 回目での着地は体勢がうまく取れないいつもの悪い癖が出てしまい記録は伸ばせなかった。一方杉本は 1 本目に大ジャンプを見せるものの惜しくもファール。2 本目は着地で大きくロスしてしまう。続く 3 本目も自分の跳躍をすることが出来ず、決勝進出は出来なかった。(三浦)

平成19年度新入生名簿

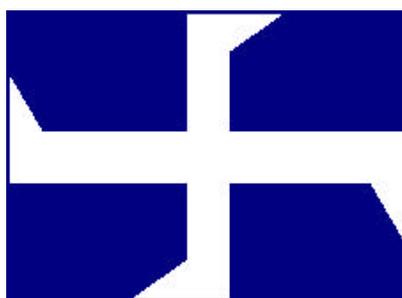
名前	学部	出身高校(都道府県)	パート	種目・高校ベスト
男子				
生谷 隆磨	農	堀川 (京都)	長	1500m 4'37
柿本 悠貴	法	磐田南 (静岡)	長	1500m 4'06 5000m 15'04
小西 康晴	工	茨木 (大阪)	跳	棒高跳 3m60
小島 慎平	工	半田 (愛知)	中	800m 2'11" 1500m 4'31"
小山 俊之	理	東海 (愛知)	長	1500m 3'56"41 5000m 14'55"84
坂本 剛	理	都立西 (東京)	長	1500m 4'13"2
下端 啓介	工	近大和歌山 (和歌山)	長	5000m 16'40
宿院 享	農	茨木 (大阪)	投	
鈴置 航央	経	大阪星光 (大阪)	中	400m 52'85 800m 2'02"16
鈴木 大河	総	藤枝東 (静岡)	長	1500m 4'21 5000m 16'09
鈴木 達哉	工	岡崎 (愛知)	長	1500m 4'15 5000m 15'30
高棹 真介	理	札幌月寒 (北海道)	跳	走幅跳 6m33 三段跳 13m02
中桐 寛仁	工	小豆島 (香川)	中	1500m 4'23
萩生 翔大	総	大阪星光 (大阪)	短	200m 22"82 400m 49"89
藤本 心太	理	渋谷幕張 (千葉)	跳	三段跳 12m34
松下 亮祐	工	長田 (兵庫)	長	5000m 15'52
三上 翔	文	仙台第二 (宮城)	長	5000m 16'05 3000mSC 10'22
巳波 壮馬	工	奈良 (奈良)	跳	走り高跳 1m84
山田 唯	理	桐蔭学園 (神奈川)	長	5000m 15'39 3000mSC 9'36
吉田 繁治	薬	高槻 (大阪)	短	100m 10"89
女子				
岡田 あずさ	京女	京都女子 (京都)	マネ	
田仲 陽子	医	長田 (兵庫)	マネ	
福谷 彩織	法	鳥取西 (鳥取)	中	800m 2'22
森山 友紀子	農	浦和第一女子 (埼玉)	長	1500m 4'58" 3000m 11'04"
院生				
菊川 信人	理	広島大学	長	5000m 15'54"87 10000m 33'49



賞状を片手に満面の笑みをうかべる佐藤章則



今大会でも 400mH で表彰台に上がった水谷



蒼穹ニュース 平成19年度 第2号
平成19年5月27日 発行

発行所：京都大学体育会陸上競技部
編集者：櫻井研吾・佐藤慎祐・吉川直樹（副務）
特別協力：吉良佳晃・田端康平（学連員）・前田達朗（体育会員）
岡本京祐（HP係）・富田夏希（記録係）
写真担当：赤窄尚子・秋山 源・皆川広太

陸上競技部 HP <http://www.kusu.kyoto-u.ac.jp/~athletic/index.html>
ミラーサイト <http://www.geocities.co.jp/Athlete-Samos/2360/>
陸上競技部記録 HP <http://www.kusu.kyoto-u.ac.jp/~athletic/kiroku/index.html>
関西学連 HP <http://gold.jaic.org/icaak/index.htm>
メールアドレス k-sacura-tfc@ca2.so-net.ne.jp（櫻井）